会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称
第2回美里町障害者計画等策定委員会
- 2 開催日時 令和5年10月23日（月）午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 美里町健康福祉センターさるびあ館 1階大広間
- 4 会議に出席した者
 - (1) 委員
小野 俊次 会長、木村 明子 副会長、石川 芳民 委員
須田 明美 委員、伊藤 光也 委員、伊藤 公善 委員、近藤 等 委員
 - (2) 事務局（健康福祉課）
渡辺 克也 課長、相澤 環 課長補佐、藤崎 浩司 主幹兼障害福祉係長、
望月 晶 技師
 - (3) その他
株式会社ぎょうせい 阿部 務 主任研究員
- 5 議題及び会議の公開・非公開の別
議題
 - (1) アンケート調査の結果について
 - (2) 第6期美里町障害福祉計画等の進捗状況について会議の公開・非公開の別
 - ・公開
- 6 傍聴人の人数
 - ・0人
- 7 会議資料
 - ・資料① 病気や障害のある方への支援 暮らしやすいまちづくりのためのアンケート調査 結果報告書
 - ・資料② 計画策定にむけた進捗状況・サービス見込量の方向性
 - ・資料③ 第5次障害者基本計画 概要

- ・資料④ 第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画で定めるべき事項について

8 会議の概要

○事務局（渡辺健康福祉課長） 委員の皆さん、お疲れさまでございます。健康福祉課長の渡辺でございます。本日もご多忙のところご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。定刻でございますので、令和5年度第2回美里町障害者計画等策定委員会を開会させていただきます。本日もございますが、阿部律子委員からご都合により欠席とのご連絡をいただいております。

美里町障害者計画等策定委員会条例第6条第2項の規定により委員の半数以上の出席が必要でございます。本日半数以上の委員のご出席を頂戴しておりますので、会議開催の要件を満たしておりますことをご報告させていただきます。

それでは、美里町障害者計画等策定条例第6条第1項の規定により、会長が会議の議長となることを定めておりますので、小野会長を議長といたしまして会議を進めていただきます。小野会長、よろしくお願いいたします。

○小野会長 大分寒くなったり暑くなったりしております。皆様においてもくれぐれも健康には注意していただきたいと思っております。

それでは、早速、2の会議録署名人と会議書記の選出について、事務局からお願いします。

○事務局（相澤課長補佐） それでは、事務局から、本日の会議録署名人に近藤等委員と、伊藤公善委員を推薦させていただきます。あわせて、会議書記に健康福祉課の技師の望月晶を指名させていただきます。

○小野会長 委員の皆さん、以上事務局からの選出、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○小野会長 それでは、伊藤委員と近藤委員、望月技師、よろしくお願いいたします。

それでは、早速3番の審議、今日は2つあります。（1）のアンケート調査の結果について事務局より説明願います。

○事務局（藤崎主幹兼障害福祉係長） 健康福祉課の藤崎と申します。よろしくお願いいたします。では、私の方からご報告させていただきます。お手元の資料、①と書かれたアンケート調査をご覧ください。

着座にてご説明させていただきたいと思っております。それでは、1ページをご覧ください。今回のアンケートでございます。

新たに策定を進めている美里町第4期障害者計画、第7期障害福祉計画及び第3期障害児福祉計画の基礎資料となることを目的に実施しております。

8月に障害者手帳をお持ちの町内在住の方、また、障害者手帳をお持ちで町外の施設に入所されている方を対象に行いました。こちらの資料にも書かれておりますとおり、配付数は1,369件、回収数は688件、回収率が50.3%でございます。白票等がございましたの

で、そちらを除くと 664 件の有効票ということでございます。

3 ページ以降は、アンケートの各質問に対する全体票 664 件が基本ということになっております。

続きまして、2 ページをご覧ください。こちらにつきましては、今回の集計に用いる用語です、省略して表記することにしております。こちらをご留意の上アンケートの結果を確認していただければと思います。

次に、3 ページ以降になります。問 1 から問 47 まで設問がありまして、そちらの集計を表記してございます。

大変申し訳ございませんが事前配付をさせていただいておりましたので、個別ごとの詳細の説明は割愛させていただき、今回大まかな説明でのご報告ということでご了承願いたいと思います。

調査対象となる回答者の性別や年齢、障害状況などに関すること、4 ページの問 2 から問 10 の 18 ページまでを示させていただいております。

各質問のクロス集計です。数値などに網掛け、グレーがかっているところが回答の割合が最も高いところを示すものでございます。

19 ページに進みます。

19 ページから 27 ページまでは、問 11、日常生活の自立状況について把握するために伺ったものでございます。

進みまして、28 ページから 32 ページになります。

こちらは問 12 から問 15、暮らしの状況と意向を把握するためのものでございます。

33 ページから 41 ページになります。

こちらは問 16 から問 19 までで、内容は、困り事や不安内容、相談相手となるもの、情報入手先などについての調査項目となっております。

次に、42 ページから 47 ページになります。

問 20 から問 25 まででございます。障害福祉サービスの利用について、主に把握するためのものとなっております。

進みまして、48 ページから 49 ページになります。

問 26 と問 27 でございます。

就労状況の把握のために実施しているものでございます。

次に、50 ページから 53 ページです。

問 28 から問 31 まででございます。

災害時に関する状況把握ということで調査を行っております。

進みまして、54 ページから 59 ページでございます。

問 32 から問 34 まで、成年後見制度や日常生活自立支援事業や虐待などの認知状況、意向の調査を行っております。

60 ページから 61 ページです。

問 35 と問 36 になります。

共生社会の理解度について行っております。

62 ページから 65 ページでございます。

問 37 と問 38、新型コロナウイルス感染症流行による影響について把握するために行っているものでございます。

66 ページでございます。

問 39 は、障害者福祉施策について、重要度と満足度の二軸による評価状況となっております。

69 ページから 76 ページ、問 40 から問 42 までです。

介助や介護に関係することの状況を把握するために調査を行っているものでございます。

77 ページから 81 ページまでは、問 43 から問 47 です。

障害児についての調査でございます。

アンケートの最後に問 48、自由記述がございます。記載内容につきましては、大変申し訳ございませんが、分かりやすく整理したものを 3 回目の策定委員会で提示させていただきたいと思っております。

以上、調査結果の報告とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○小野会長 今、アンケートの調査の主なところを説明していただき、事前に配付されておりましたのでご覧になっていたと思いますが、何か聞きたいことやご意見、ご質問ありましたら、お願いします。何かございませんか。

○須田委員 分からないことを聞いてもよろしいですか。

○小野会長 はい。どうぞ。

○須田委員 介護保険の要介護認定というのは、障害者の方が高齢者となったら認定を受けることになるのですか。

○事務局（藤崎主幹兼障害福祉係長） 基本的には 65 歳から皆さん介護のサービスは始まるのですが、障害のサービスにつきましては、その方の特性、状況等を把握しながらどちらのサービスを使い続けるかということは、こちらでも慎重に吟味しながら進めていくこととなります。もちろんサービスを受けられている方、ご家族の方ともきちんとお話をして協議を進めながらどちらのサービスを使うかということを決めていくこととなります。

○小野会長 よろしいですか。

○須田委員 はい。ありがとうございます。

○小野会長 ほかにございませんか。質問がないようですので、今のアンケート調査の結果については、ご理解いただいたということによりよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○小野会長 ありがとうございます。

それでは、アンケート調査の結果についてはご理解いただいたということで進めさせていただきます。

次に（２）の第 6 期の美里町障害福祉計画の進捗状況について、事務局より説明をお願い

いします。

○事務局（相澤課長補佐） それでは、事前に配付させていただいておりました資料②、こちらにつきまして、訂正をしていただきたい箇所が2か所ございます。

16 ページをお開きください。

16 ページの下から4行目のところに、「づき、地域への移行可能な利用者については、積極的に整備が図られるよう既存の」の「既」まで入っています。

この下から4行目の「地域への移行可能な利用者については、」というところまでを削除していただくようお願いします。

それから、もう1か所ございます。

19 ページです。

上のほうに計画相談支援、地域移行支援、地域定着支援ということで、計画の実績が書いてある表がございます。第5期と第6期となっていますが、令和3年度から5年度までが第6期、太枠になっている第6期となっているところが第7期の誤りでございます。以上2ページでございます。

それでは、ご説明に入ります。よろしく申し上げます。

初めに、資料③のA4の横型のものと、表紙に虹がかかっている第3期美里町障害者計画、第5期障害福祉計画、第1期美里町障害児福祉計画という冊子を最初にご覧いただきたいと思えます。

初めに、資料③について説明をさせていただきます。

この会議では、3つの計画を策定するというところで、第1回目の策定委員会の際にお話をさせていただきました。現在の障害者計画につきまして、この計画書に掲載しております。

今回、審議に上げております内容については、特に触れることはございませんが、次回でお話しさせていただきたいので、本日の本題に入る前に先に説明させていただきます。

障害者計画についてですが、現計画は、こちらの冊子の23ページから第3期障害者計画が載っております。平成30年度から令和5年度までの6年間の計画になっており、国の障害者基本計画や都道府県の障害者計画を基本とし、町の状況を踏まえてこの計画を策定しております。次の第4期計画をつくるに当たりましては、資料③の国の第5次の障害者基本計画の概要ということで、その主な内容とするものについて、大きな1から11まで項目が挙げられておりますが、これを踏まえて策定していきます。

22ページに基本理念や横断的視点、施策体系とありまして、基本目標が1から4までございます。次期計画は、現計画の施策体系の項目は継承し進めてまいります。その中に国の障害者基本計画第5次の内容を含めまして、地域に応じた障害者計画をつくっていきたいと思えます。第3回の策定委員会の際に素案としてお出しさせていただきたいのでお知らせさせていただきました。後でご覧いただきたいと思えます。

それでは、本日の次第にありますことについて、資料②を使って説明させていただきます。

資料②の第7期美里町障害福祉計画、第3期美里町障害児福祉計画、計画策定に向けた進捗状況、サービス見込み量の方向性をご覧ください。

現計画の第6期美里町障害福祉計画、第2期美里町障害児福祉計画は、令和3年度から令和5年度までの3年間と定めておりまして、これらの計画については、目標値として設定した項目についての達成状況を点検評価する機会を設け、その結果に基づき必要な対策を講じて行くものとしておりまして、毎年の実施状況につきましては、町の地域自立協議会で報告し、ご意見をいただいているところでございます。

本日は、令和5年度がこの計画の最終年度に当たりますので、計画期間内の総合的なご意見をいただければと思います。

あわせて、現計画の状況から次期の計画の見込み量の設定の考え方もご提案させていただきますので、こちらについてもご意見をいただきたいと思います。

資料は、1ページから24ページまでは障害福祉計画について、25ページ以降は障害児福祉計画についての構成としています。

まず、障害福祉計画についてご説明させていただきます。

障害福祉計画は、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に規定されるもので、国の基本的な指針を基本として障害福祉サービス、相談支援などの地域生活支援事業で必要となる見込み量を確保するための提供体制等に対する目標を定める計画となっております。

資料の6ページ、ご覧ください。

2の障害福祉サービスの利用状況と見込量設定の考え方について、数的なところの説明を先にさせていただきます。

(1) 訪問系サービスにつきましては、事業名というところがございます、居宅介護から重度障害者等包括支援までございますけれども、今期、美里町で利用されている事業は、その中の居宅介護と同行援護のみです。

利用状況については、6ページの下の方に表を載せておりますのでご覧ください。

ここで、表の構成について少し話をさせていただきます。

第6期の計画値と実績、第7期の計画値を入れるようになっておりますが、このページから19ページまで、米印で最初のこのページに記載させていただきましたが、第6期の利用実績については、令和3年度と令和4年度と表記されているところが各年度3月末の実績です。令和5年度は、直近が8月なので8月末現在、それぞれ1か月当たりの利用量を記入しております。

第7期の見込み量については、本日の会議内容から見込み量を設定するという形で、計画の素案に入れさせていただきたいと考えてございますので、本日は空欄となっております。

それでは、訪問系サービスの利用状況に戻ります。

第6期においては、利用人数は横ばいの推移にありますが、利用時間数については減少している状況です。計画値に対し6割から9割の利用となっております。1人当たり利用量は各年でばらつきがあり、令和5年度における1か月の平均利用時間は、1人当たりの

1月の利用見込み量は8.5時間となっております。

これをうけ、第7期の見込み量の考え方としては、利用人数の見込みについては、第6期の推移を踏まえて、各年度1人～2人増と考えております。利用時間については、各年度に見込まれる利用人数の1人当たりの見込み量の8.5時間を掛けて算定しようと考えています。

見込み量確保の方策としましては、現状では、計画期間における見込み量の確保は可能と考えていますが、引き続き既存の事業所のサービス提供状況を確認して見込み量を確保していきたいと考えます。

訪問系サービスは、在宅での自立した生活を支えるためのサービスであり、多様なニーズが想定される一方で、こうした多様性が十分な利用に結びついていないことが考えられるため、障害特性を理解できるヘルパーの育成など、サービスの質の向上に努めながら利用促進を図りたいと考えています。

次に8ページご覧ください。

日中活動系サービスです。①生活介護の第6期の利用状況につきましては、利用人数、利用日数ともにおおむね増加推移で1人当たりの利用量は1月当たり20、実績と計画値との比較では利用人数、利用日数共に計画値を上回る推移となっております。すみません、計画値の「値」の字が誤りです。土地の「地」になっておりました。「値」に訂正させていただきます。

第7期見込み量の設定の考え方ですが、利用人数の見込みについては、第6期の推移と特別支援学校に在籍している障害児の卒業後のサービス利用を見込んで各年度1人から2人の増加を考えております。

利用日数の見込みについては、各年度に見込まれる利用人数に1人当たり見込み利用量20日を掛けて算定します。

表のところ米印をつけさせていただきましたが、第7期計画で生活介護を受ける方の中で重度行動障害者という方について、個別にまた内訳を設定することが望ましいとされております。

見込み量確保の方策としましては、計画期間のサービス提供基盤として見込み量を十分確保できるよう町内及び大崎圏域内の市町と広域的な調整を行って引き続きサービス基盤の確保を図ってまいります。

日中活動の場を確保し充実を図るために、サービス提供事業者と連携して利用者のニーズに対応した質の高いサービスを提供できるように体制の整備と充実を図ってまいります。

次のページご覧ください。②自立訓練（機能訓練・生活訓練）です。

こちらのサービスの利用状況につきましては、機能訓練は、令和5年度現在、町内及び大崎圏域に事業所はなく、利用もない状況です。

生活訓練につきましては、令和5年度現在、町内に事業所はなく、大崎圏域内外のサービス提供事業所はございますが、これまでの期間、利用はない状況です。

第7期の見込量の設定の考え方としましては、今期第6期は今後の見込みはなく、利用

する方はいないと思われませんが、直近の第5期の推移を踏まえまして、第6期と同様に見込むこととし、機能訓練は0人、生活訓練は各年度2人を見込もうと考えています。

利用日数につきましては、利用人数1人あたりに見込み利用量20を掛けて算定と考えております。

見込量の確保の方策としましては、計画期間のサービス提供基盤として、見込み量を十分確保できるように町内や圏域内外の市町との広域的な調整を行って、引き続きサービス基盤の確保を図ります。

入所施設や病院から地域生活移行を促進するために、大崎圏域内の市町、サービス提供事業所と連携を図って、生活能力の維持・向上などの支援を必要とする人の把握に努め、引き続き適切なサービス提供基盤を確保します。

次に、③就労選択支援です。これは、第6期現在の計画にはなく、第7期の計画で新たなサービスとして設定することになっています。

就労選択支援ということで、障害を持つ人の希望や能力に合う仕事探しを支援して関係機関との橋渡しを担うサービスです。そのサービスが実際始まるのは令和7年度になるかと思われま。支援する方がいらっしゃる場合は、1人を第7期で見込もうと考えております。

11ページをご覧ください。④就労移行支援です。

こちらについては、第6期の利用状況は、利用人数、利用日数ともに増加推移となっております。1人あたりの利用量は微増している状況で、令和5年度における1か月の利用日数は1人あたり18.9となっております。

第7期の見込量の設定としては、利用人数の見込みは第6期の推移を踏まえて令和6年度に1人増として、以降は現状維持と考えています。

利用日数の見込みにつきましては、各年度に見込まれる利用人数に1人あたり見込み量18.9を掛けて算定します。

見込み量確保の方策としましては、計画期間のサービス提供基盤として見込み量を十分確保できるよう、町内及び大崎圏域内の市町と広域的な調整を行いまして、引き続きサービス基盤の確保を図ります。

このサービスは、就労を通じて障害のある人の自立を図っていくためにも、利用促進を図る必要があるため、町内、大崎圏域にある事業所に広く周知するとともに関係機関や相談支援などと連携し一般就労への移行を支援していきます。

12ページご覧ください。⑤就労継続支援についてです。

就労継続支援A型につきましては、利用状況は第6期は人数、日数ともに増加しており、計画値を上回る推移となっております。1人あたりの利用量では、各年度で増減が見られまして、令和5年度における1か月の利用日数は1人あたり20.3となっております。

就労継続支援のB型につきましては、第6期以降、利用人数、利用日数ともに増加していますが、実績と計画値を比較すると計画値を下回る推移となっております。

1人あたりの利用量は各年度で増減が見られまして、令和5年度における利用日数は1

人当たり 18.1 となっています。

第 7 期見込量の設定の考え方につきましては、第 6 期の推移を踏まえまして、就労継続支援 A 型は 6 年度実績値に 2 人増として以降現状維持を見込んでおり、就労継続支援 B 型は、令和 6 年度実績値に 1 人増として以降現状維持を見込んでいます。利用日数の見込みについては、各年度に見込まれる利用人数に 1 人当たり、A 型は 20.3、B 型は 18.1 を掛けて算定します。

見込み量確保の方策としましては、サービス提供基盤として十分に確保できるように町内、大崎圏域内の市町と広域的な調整を行い、引き続きサービス基盤の確保を図っていきます。

就労継続支援は、障害特性の多様化、利用者の高齢化に伴って雇用環境とともにニーズも多様化しております。そのため、作業などを選択して事業所を選べるよう、機会の充実に努めていきたいと考えています。

⑥就労定着支援につきましては、第 6 期は、利用人数は少なく計画値を下回る推移となっています。第 7 期の見込み量の設定につきましては、第 6 期の推移を踏まえて、各年度 2 人増とする予定です。

見込み量確保の方策としましては、就労移行支援、就労継続支援のサービス提供事業所と連携し、サービスの利用状況、一般就労へ移行する人を把握し、適切なサービス利用につなげるとともに、町内及び大崎圏域内のサービス提供事業所とともに、必要な提供基盤の確保に努めてまいります。

14 ページをご覧ください。

⑦療養介護です。第 6 期の利用状況につきましては、利用している方は 30 年度以降 6 人で推移しておりまして、計画期間における利用人数は計画値どおりの推移となっております。第 7 期も現状維持と見込んでおります。

見込み量確保の方策につきましては、町内及び大崎圏域内の市町との広域的な調整を行って、引き続きサービス基盤の確保を図っていきます。

療養介護については、18 歳以上の重症心身障害児入所者が対象者となることや利用者の高齢化に伴い、今後常時介護を必要とする人が増える可能性があるため、引き続き見込み量の確保に努めてまいります。

次に、⑧短期入所です。第 6 期の利用状況につきましては、利用人数、利用日数はおおむね計画値どおりの推移となっておりますが、次のページ、令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の流行を受けて減少傾向となっています。医療型の短期入所については、現在、利用者はいない状況です。短期入所については、緊急時の対応や介護者が休養を取るなどのレスパイトとしての機能も有していることから、必要と思われる量の確保に引き続き務めていくことが望まれます。

第 7 期の見込み量確保の考え方につきましては、第 6 期の推移を踏まえて、福祉型は各年度 1 人増、医療型は各年度 1 人を見込みます。利用日数につきましては、各年度に見込まれる利用人数に 1 人当たり見込み利用量の福祉型は 7.1、医療型は 4 を掛けて算定いた

します。

表の下に米印ございますが、第7期につきましては、この短期入所を利用される方のうち重度高度障害者の方について、個別に利用者の把握をすることを見込むことが望ましいとされているので、第7期はそのようにしたいと考えています。

見込み量確保の方策としましては、親の高齢化に伴って利用者数、利用日数ともに増加が見込まれることから、新規事業者の参入を含めてサービス基盤の確保を図ってまいります。

地域生活支援拠点が有する機能の充実と緊急時における障害者の受入れなどを円滑に行うことができるように、地域の事業者との連絡体制の構築を図っていきたいと考えております。

次に16ページをご覧ください。居宅系サービスについてです。

初めに、①共同生活援助について、第6期のサービス利用状況につきましては、利用者が増加しており、計画値を上回っております。

第7期の見込量の設定につきましては、第6期の推移を踏まえて実績値に各年度1人増を見込みます。見込み量確保の方策につきましては、住まいの確保は、地域での自立した生活を目指す上で引き続き重要な取り組みです。在宅・日中活動サービスの充実とともに地域生活支援拠点などの整備を充実させるために、相談支援や緊急時の対応など機能を強化したグループホームの整備などに総合的に取り組む必要があります。グループホームの需要は高く、現在の事業所数でも常に空きがある状況ではないことから、新たな事業所の開設が望まれており、積極的に整備が図られるように既存事業所などに働きかけや新規の事業者の参入も推進してまいります。また、地域の方の理解と協力を求めてまいります。

17ページをご覧ください。②施設入所支援です。

第6期の利用状況につきましては、町内に事業所はなく、大崎園域内外のサービス提供事業所より提供されております。利用状況は、横ばい状態となっております。

第7期の見込み量設定の考え方としましては、入所者及び家族の高齢化など、退所は困難と考えられるほか、介護者の高齢化により施設入所を希望する人もいるため現状維持と見込みます。見込み量確保の方策としましては、施設入所については、入所者の意向に配慮しつつ計画期間の目標を視野に入れながら地域への移行を推進します。また、グループホームでの対応が困難な方など、真に施設を必要とする方に対して適切なサービスが提供されるようにサービス提供事業所と連携を図っていきたいと考えています。

次に、③自立生活援助です。こちらにつきましては、現在利用している方はいない状況ですが、必要なタイミングでサービスが利用できるように検討していく必要があります。第7期につきましては、今期利用実績はありませんが、地域移行を推進する上で必要なサービスであるため各年度1人を見込みます。見込み量の確保につきましては、親の高齢化に伴って利用者が見込まれることから、新規事業所の参入を含めて引き続きサービス基盤の確保を図ってまいります。

次に、相談支援についてです。第6期の利用状況については、実績の表が次のページ 1

9 ページにあります。

計画相談支援については、各年で 40 人から 70 人程度の利用で、福祉サービス利用者の増加に伴って利用者は増加傾向にあります。令和 5 年度現在、町内に 5 か所の事業所が整備されております。地域移行支援、地域定着支援については、大崎圏域に事業所がないため、現在利用者がいない状況ですが、引き続きサービスが必要な人が利用できるように施設整備などについて検討していく必要があります。第 7 期見込量の設定の考え方につきましては、計画相談支援の見込みについては、介護保険への移行など減少はありますが、第 6 期の推移を踏まえるとともに、サービス利用者は今後も増加が見込まれることから各年度に 2 人増と考えています。地域移行支援や地域定着支援については、地域移行が進むことを見込んで各年度に 1 人とします。見込み量確保の方策としましては、計画相談支援は、現在の特定相談支援事業所を維持しつつ、地域自立支援協議会相談支援部会を活用して、特定相談支援事業、障害者相談支援事業などの機能や役割を整理して相談支援の質の向上を図るとともに、人材の育成と確保を図っていきます。

地域移行支援、地域定着支援は、サービス提供基盤としてどの程度の整備が必要なのかを検討しつつサービス提供事業所や自立支援協議会、関係機関などが連携し、地域移行が実現できるよう、支援体制の整備と充実を図ります。

以上、第 6 期計画のサービスの利用状況と、第 7 期計画に向けた見込み量設定の考え方についてご報告、ご説明させていただきました。

次に、成果目標の状況についてご説明させていただきますので、1 ページをご覧ください。第 6 期の障害福祉計画の成果目標として、7 つ掲げておりました。

まず、(1) としまして、施設入所者の地域生活への移行です。国が示す基本的な考え方から、令和 5 年度末時点の施設入所者数の 6 % 以上が地域生活へ移行するということから、令和 5 年度の目標値としては 3 人、それから、令和 5 年度末時点の施設入所者数を令和元年度末から 1.6 % 以上削減するという目標を立てまして、実際の実績値につきましては、下の表になります。第 6 期は、地域生活への移行者の状況を確認し、必要な支援や移行に向けて取り組みを進めた結果、施設入所者の削減見込数は、令和 5 年度末の目標値では、0 人だったのですが、令和 5 年度現在で入所者数 26 人となり、令和元年度よりも 1 人削減されたので、目標値を上回る削減が見込まれています。

地域生活の移行者数につきましては、令和 5 年度末見込みでは 1 人となっておりますので、3 人の目標値から下回るような形になります。

この目標に関する詳細な数値につきましては、先ほど、11 ページから 17 ページまでの利用状況でご説明をさせていただきましたが、活動指標となる共同生活援助や就労移行支援の利用者数は増加しておおむね計画値どおりの推移となっておりますが、施設入所者支援の利用者数は横ばいの状況となっており、地域生活への移行にはつながっていない状況です。

施設入所者の地域生活への移行を推進するために引き続き施設での生活から地域での生活へ、本人の自己決定を尊重して、家族の方や関係機関の理解や支援も得ながら移行ニー

ズや求められる支援などの把握と分析を進めまして、地域での生活を支援していきたいというふうにも考えております。

次に2ページをご覧ください。目標2つ目が、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築ということで、町では、そのシステムを構築、推進するために保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置や実施するという目標になっておりました。

目標としておりました地域包括ケアシステムの構築、目指すための協議の場につきましては、町だけでなく、大崎圏域の1市4町で構成しております大崎地域障害者自立支援ネットワーク会議の中で検討するなど取組を進めてまいりましたが、設置には至っておりません。

精神障害者が住み慣れた地域で充実した生活を送ることができるように、県が実施する大崎圏域の精神障害者地域支援会議での検討や今までも行っておりました大崎地域障害者自立支援ネットワーク会議の中で引き続き協議をしていきたいと考えております。

3つ目の目標として、地域生活支援拠点等が有する機能の充実ということで、地域生活支援拠点等整備を1か所、地域生活支援拠点等の機能充実のため、年1回以上の検証・検討を実施するとしておりました。本町では、地域において機能分を分担する面的整備によって地域生活拠点の整備を進めてまいりました。障害者グループホームの整備事業として、町が経費の一部を補助し、青生地区に開設されているグループホームいちごは、短期入所の併設があり、緊急時の受入れ対応が可能な施設として機能しております。

3ページに移ります。令和4年度は、地域自立支援協議会の地域生活拠点整備委員会でのその拠点の事業状況の確認と緊急時の受入れ対象者の検討を行っております。また、4年度は民生委員、児童委員の方を対象に研修会を開催し、地域支援者の気づく力や支援力の向上を図る取り組みも進めました。今後も拠点に関する全ての機関、それから、人材の有機的な結びつきの強化に向けた取組を継続していきたいと考えています。

4つ目の目標としまして、福祉施設からの一般就労への移行等です。一般就労への移行につきましては、令和5年度年間の一般就労移行者数ということで、それぞれ表になってございますが、就労移行支援事業の一般就労移行者数は7人、就労継続支援A型の事業の一般就労移行者が2人、それから、B型の事業の一般就労移行者が3人というふうにそれぞれ目標を掲げておりましたが、実績につきましては表に掲げてありますように就労移行支援事業としては7人の目標に対して2人、A型事業からの一般就労移行は1人、B型事業の一般就労移行者は0人という、現時点の実績になっております。

それから、一般就労移行者のうち就労定着支援事業の利用者数についてです。令和5年度の就労移行支援を通じて一般就労に移行する人の就労定着支援事業の利用者数については、令和5年度は、今のところいないので実績値は0人というような形になっております。

それから、4ページをご覧ください。目標の5つ目、相談支援体制の充実・強化等ということで、相談支援体制の充実・強化を進めるために令和5年度末までに取り組む障害の種別や各種ニーズに対応できる総合的・専門的な相談支援に取り組むとともに、地域の相談支援事業者に対する訪問などによる専門的な指導・助言、人材育成に係る支援の実施、

連携強化に取り組むこととしておりました。第6期計画での取り組みにつきましては、町の基幹相談支援センターを中心とし、町内の相談支援事業所の初回訪問時等に同行し、専門的な指導・助言を行ったこと、人材育成のための支援としてOJT受入れや相談支援専門員からの相談の実施、町内の相談事業者との事例検討や人員の情報交換など行ったことにより相談支援の連携が図られています。今後も地域の相談支援事業者と連携関係を強化して相談支援体制の充実を図ります。

目標の6つ目、障害福祉サービス等の質を向上させるための取り組みに係る体制の構築ということで、障害福祉サービス等が多様化するとともに、多くの事業者が参入している中、利用者が真に必要とする障害福祉サービス等を提供するために障害福祉サービス等の質の向上を図るための取組に係る体制を構築することでした。

第6期計画では、県が実施する障害福祉サービス等に係る研修へ職員が参加することで得た知識を基に、障害者自立支援審査支払等システムによる審査結果の分析及び活用を行いまして、障害福祉サービス等の質を向上させるため、サービス事業者との情報共有に取り組ましました。

最後に7つ目です。発達障害者等に対する支援ということで、保護者等が子どもの発達障害の特性を理解して必要な知識や方法を見つけて適切な対応ができるようにということで、第6期の取り組みにつきましては、町が実施している早期療育指導訓練事業において、集団遊びや日常生動作の支援を通して子供の発達を促すことができ、専門職による発達審査及び助言を行うことで保護者の不安解消、親子の情緒安定が図られるよう、支援に務めました。令和4年度は、その事業に登録している方を対象としてペアレントプログラムを実施し、保護者が普段の育児を振り返って助言を受けながら、子の発達特性に合わせた具体的な対応方法を検討することができました。今後とも障害児保護者向け研修会や、早期療育指導訓練事業を継続するとともに、大崎圏域や県と連携を図りながら体制整備に努めてまいります。以上で障害福祉計画の進捗状況についての説明を終わらせていただきます。

なお、20ページから24ページにつきましては、地域生活支援事業の実施状況と見込み量の設定と考え方になります。こちらも障害福祉計画の中に入るものです。

第6期の実績につきましては、21ページに実施状況をのせております。22ページには実施に関する考え方と見込み量確保のための方策を載せさせていただきましたので、ご覧いただきたいと思ひます。

次に障害児福祉計画に入ります。28ページをご覧ください。障害児福祉サービスの利用状況と見込み量設定の考え方についてご説明させていただきます。

28ページの(1)障害児通所支援、①放課後等デイサービスについてです。

第2期のサービスの利用状況につきましては、利用人数、利用日数ともに増加推移となっておりますが、利用日数は計画値を下回る利用となりました。1人当たりの見込み利用量につきましては、各年度で増減が見られまして、令和5年度における1か月の利用日数は1人当たり14.7日となっております。第3期の見込み量の設定の考え方につきましては、現在の第2期の推移を踏まえまして、令和6年度に利用希望者があるため、各年度に2人増

を見込みます。

利用日数の見込みについては、各年度に見込まれる利用人数に1人当たり見込み量 14.7 を掛けて算定します。見込み量確保の方策としましては、利用ニーズの把握に努めまして、町内及び大崎圏域内の市町と広域的な調整を図って新規参入を含めサービス基盤の確保を図ってまいります。また、そのサービスについては、質の確保も図っていくように研修会などを実施したいと考えています。

29 ページは、②児童発達支援についてです。現在の利用状況につきましては、利用人数、利用日数ともに減少推移となっておりますが、利用日数は個人ごとに必要量が違うため、年度によって幅があります。実績と計画値の比較では、利用人数、利用日数ともに計画値を大幅に下回る推移となっております。1人当たりの利用量は、令和5年度における1か月の利用日数は1人当たり 15.3 となっております。医療型発達支援、居宅訪問型児童発達支援は、現在、利用者がいない状況ですが、今後の提供体制について大崎圏域内で検討していく必要があります。第3期の見込量の設定の考え方ですが、児童発達支援については、第2期の推移を踏まえまして、令和6年度に2人増、以後は各年度1人増を見込みます。利用日数につきましては、各年度に見込まれる利用人数に1人当たりの見込み利用量 15.3 を掛けて算定します。

医療型発達支援は、第2期の推移を踏まえて0人としています。居宅訪問型児童発達支援は、30年度からの新たなサービスで、現在は利用がない状況ですが、今後の見込みも含めまして1人当たり1を掛けて算定していく予定です。見込み量確保の方策としては、児童発達支援は障害児や発達障害のある子どもの増加が見込まれるため、身近な地域で早い段階での支援ができるようにサービス提供基盤の充実やサービス提供の確保に努めます。

次に、③保育所等訪問支援についてです。第2期のサービスの利用状況につきましては、町内に事業所はなく、大崎圏域内のサービス提供事業所より提供されていますが、利用がない状況になります。第3期見込量の設定の考え方につきましては、各年度1人を見込んで利用日数に1人当たり1を掛けて算定します。見込み量確保の方策としましては、支援が必要な児童の状況把握に努め、子どもたちが在籍する集団において、障害特性に合わせた適切な支援を受けられるように、サービス提供基盤の充実やサービス提供量の確保に努めてまいります。

次に、障害児相談支援です。こちらについては、利用状況は、各年度で増減がみられません。

第3期見込量の設定の考え方につきましては、町内の事業所の参入がありまして、新規利用者の増加が見込まれるため、各年2人増として算定をする予定です。障害児が適正にサービス利用計画が作成されるよう、必要な相談員の確保に努めてまいりたいと考えています。

最後に、25 ページお開きください。

25 ページに障害児福祉計画の進捗、成果目標があります。成果目標は4つ掲げておりました。(1) 児童発達支援センターの設置、こちらにつきましては、美里町に事業所はあり

ませんが、大崎広域ほなみ園というところで大崎市、色麻町、加美町、涌谷町、美里町の1市4町で構成する大崎地域広域行政事務組合が運営するものです。第2期計画での取り組みとしては、大崎広域ほなみ園では、入園児の状況から多くの園児が主治医や自宅での訪問リハビリを行っているため、その効果をさらに高めるために令和5年度から園療育に取り組むこととし、ほなみ園のリハビリ療育プログラム導入準備として令和3年度から職員研修を実施し、専門的知識を習得するなど、療育拠点としての事業を進めています。

(2)の保育所等訪問支援を利用できる体制の構築という目標につきまして、こちらも町独自では行っておりませんが、先ほどの大崎広域ほなみ園の児童発達支援センターの中で保育所等訪問支援を利用できるようになっていますので、第2期の取組では令和3年度と令和4年度に1件ずつの利用がございました。

(3)重症心身障害児を支援する児童発達支援及び放課後等デイサービスの確保、こちらの目標につきましては、第2期の取り組みとして、町にはこれに関するデイサービスはございませんが、令和4年3月に大崎市古川に開設した事業所があり、令和4年度は本町の利用者でサービスを利用した方が1人いらっしゃいます。重症心身障害児が適切な支援を受けられるように事業所の設置を進めていきたいと考えています。

27 ページ、(4)医療的ケア児に対する協議の場の設置ということで、医療的ケア児に対する協議の場の設置をしたり、医療的ケア児のコーディネーターを配置するという目標となっています。医療的ケア児に対する協議の場については、現在は設置に至っておりません。コーディネーターとなる者につきましては、美里町の基幹相談支援センターの相談支援専門員が研修を受けておりますので、コーディネーターとなることは可能になっています。現在は設置されていませんが、設置に向けて協議を進めていきたいと考えております。ご報告及び第3期の見込み等については以上になります。

それから、本日お渡しをさせていただきました資料④は、第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画で定めるべき事項についてのものです。資料②を使ってご説明した内容は現計画の報告と、次期計画の見込み量の設定の関係でした。第3回の策定委員会の時に素案をご提案させていただきます。その中には成果目標と活動指標を入れさせていただきます。成果目標につきましては、例えば資料④の(1)の①の1つ目の黒丸のところに施設入所者の地域生活への移行ということで、令和4年度末の4というところに、二重下線がしてありますけれども、その部分は、現在の計画にあります数値等が変更となるものです。

それから、今までない目標や活動指標で、新たに設定するものにつきましては、例えば③の黒丸の2つ目、機能の充実のため、コーディネーターの配置等により効果的な支援体制及び緊急時の連絡体制の構築を進めるというところに、括弧して新規と書きましたが、これが第7期障害福祉計画や第3期障害児福祉計画で新しく目標や活動指標になるもので、新規と入れさせていただきました。本日は、一つ一つは説明しませんが、このような形で変わるところ、それから、新しく設定するところを踏まえまして、次の計画の素案を作成させていただきたいと考えておりますので、ご覧になっていただきたいと思います。

以上、長くなりましたが、報告とご提案をさせていただきました。よろしくお願いいたします。

○小野会長 丁寧にご説明をいただきましたけれども、聞きたいことやご意見はありませんか。何か聞いておきたいことなどはございますか。

○伊藤光也委員 例えば、説明を聞いていて理解できなかったところなのですが、例えば13ページ、一番上、第7期の見込み量設定の考え方ということで、利用人数の見込みについては6期の推移を踏まえて令和6年度は、というんです。これは、実績値に2人増としてというのですが、実績値というのはどれをとるご予定なんでしょうか。

○事務局（相澤課長補佐） 5年度の実績をと思い書いております。

○伊藤光也委員 ただ、5年度実績ですと、今年度末、令和6年3月31日に確定する数値ですよ。

○事務局（相澤課長補佐）今は確定した数字は出てこないのですが、本日、最初にお話しさせていただいたのですが、5年度は8月末現在を実績としています。6ページの表の下の米印に3年度と4年度は3月末、5年度は直近でとれるところが8月末現在なので5年度は8月末現在でというふうに、美里町ではそのような考えで、5年度は実績見込みにはなるのですけれども、全部8月末の数値で入れさせていただきました。

○伊藤光也委員 この例でいうと、26人に2人増として、7、8、9年度は28を目標にしますという意味で理解してよろしいでしょうか。

○事務局（相澤課長補佐）はい、そのとおりです。

○事務局（渡辺課長）伊藤委員がおっしゃるとおりわかりにくい表記となっています。申し訳ありません。ここは委員がおっしゃったとおりに読み替えていただければと思います。

○伊藤光也委員 はい。では、もう一点確認させてください。15ページの真ん中の下です。短期入所の福祉型、これは各年度1人増となっていますが、これも令和5年度8月実績の23に対して各年度1人、これも24、24、24と6、7、8と入るという理解でよろしいんですよ。

○事務局（相澤課長補佐）福祉型は各年度1人増なので、そのとおりです。

○伊藤光也委員 表現の仕方について、実績値に2人増とか、こちらは各年度1人増。各年度となったのは何か理由があるんですか。

○事務局（相澤課長補佐）各年度1人増というときは、令和6年度は23人に1人足して24、7年度はそれに1人足すから24プラス1で25、8年度が26。

○伊藤光也委員 各年度、前年度に1プラスしていきますということですね。そこが使い分けされているということですね。了解しました。

○事務局（相澤課長補佐）分かりやすく表現させていただくようにします。

○事務局（渡辺課長）申し訳ございません。こちらは計画の素案ではなく、考え方を分かっていたいただくための資料なので、素案の書き方は別になる予定でございます。大変申し訳ございませんでした。

○小野会長 ご理解いただきましたか。

○伊藤光也委員 はい、ありがとうございます。

○小野会長 ほかにございませんか。ほかに何でもいいので、ありましたらお願いしたいと思えます。

○伊藤公善委員 28ページの児童のサービスのところですが、下から7行目の1人当たり見込み利用量 月 14.7というところがあるんですが、町内でも放課後等デイサービスはまだ利用制限している事業所はないのですか。曜日を固定しているとか。みんなが利用したい分利用してこの数字なのか、それとも、事業所が利用制限をかけてこのようにしているのかという事業所があるのかどうなのかというのが少し気になりました。制限がなくなったりすればもっと見込み量が増えるものなのかなと思ったりもしたところだったのですが。もともとデイサービスだと月・水・金しか利用させないというような、トータルで総合的に量を調整していて、結局その被害を受けているのは利用者側なので、そこがそうじゃなくて本当はもうちょっと、見込み量というかニーズ量はどこに書いてあるか分からないですけれども、そういったところではもっともっと高いのかなと思えました。アンケートの中では2名ぐらい、児童のところで行く場所がないとか、ほかの保健とか福祉とか医療のサービスとかを受けられるものがないというもののうちの福祉サービスだとしたら、もしかしたら放課後等デイサービスとか、児童発達かもしれないんですけども、もし放課後等デイサービスだとしたら、行きたいのにまだ足りていない充足されていない人がいるのかなと思って、その根拠がどのようなものかなと思えました。

○事務局（藤崎係長） 確かに、今、おっしゃったとおり制限というか基準みたいなものを設けていましたので、その数字に近くなってくるのは申し訳ないというか、そんな感じなのかなと思ってはいました。

○伊藤公善委員 実績に基づいてというところですよ。

○事務局（藤崎係長） そうです。

○事務局（渡辺課長） ここは実績の数字が入っているということでご理解いただきたいと思えます。計画では、伊藤委員のご意見も踏まえて、素案で提示させていただきたいと思えます。ありがとうございます。

○小野会長 では、よろしいですね。ほかにございませんか。

（発言する者なし）

○小野会長 ほかにないようでしたら、この障害福祉計画の進捗状況についての説明のとおり進めていくということで、また次の策定委員会の時に深い話になると思えますけれども、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○小野会長 ありがとうございます。それでは、今の説明のとおり進めてもらいたいと思えます。では、次に、その他に入ります。委員の皆様から何か、ご意見などございましたら、お願いします。

○伊藤公善委員 さきほどありました例えば、精神障害を持つ方の地域包括やほかにも何点かありましたが、僕はそんなに全てを詳しく知っているわけじゃないんですけども、

圏域の中で美里町が先行しているのではないかと考えているんです。

それを、圏域の他の市町に合わせて実施できていないことになってしまうのはもったいな
いなと感じているところがありまして、そのためにこの計画がうまく進んでないというよ
うな結果になってしまうのではないかと正直思っていたところで、結局、協議の場を設け
るというところでとどまってしまうのではないかと、本当は美里町だけで取り組むのであれ
ばもっともっと進められることがあるのかなと思っていたので、そこをどう表現したら
いか、圏域で足並みそろえなければならぬと思いますが、その難しさがあるのかなと
思っていたところでした。

○小野会長 事務の方から。今のお話についてお願いします。

○事務局（渡辺課長）ありがとうございます。第3回目の会議のときに素案としてお出し
するときに、その辺りも考慮した上でご提案させていただきたいと思います。ありがとう
ございます。

○小野会長 ありがとうございます。それでは、以上で議事の進行を終了したいと思います。
よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○小野会長 ありがとうございます。では、事務局、お願いします。

○事務局（渡辺課長）本日はいろいろとご意見いただきましてありがとうございます。
今日、第2回目ということで、今日はアンケート調査の実施した結果についてご報告させ
ていただきました。第3回目については、素案を提示したいと思いますので、そのアンケ
ートを踏まえた上で、どういう方向性でつくっていくのかという事務局案をお示しさせ
ていただく予定です。本日のご意見を踏まえ、素案を出させていただく予定にしております
ので、次回、委員の皆様方からご意見をいただきたいと思います。

それでは、以上をもちまして、令和5年度第2回美里町障害者計画等策定委員会を閉会
いたします。委員の皆様、本日はどうもありがとうございました。

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和 年 月 日

委 員 _____

委 員 _____